

2014年1月25日発行

市民活動応援☆きらきら基金 特別企画
伊藤なるたか桑名市長さんのトークタイム
『桑名の未来と市民活動』

2月22日(土) 午後4時から5時
桑名市総合福祉会館大ホール
聞き手 服部則仁さん(みえきた市民活動センター理事長)

「歴史と文化のあるまち」と同時に、「住みよいまち」としてたくさんの人たちを受け入れてきた桑名市。働く人たちが減少し、高齢者の比率が高くなっているなかで、伊藤市長は、『新・桑名市7つのビジョン』を掲げ、「次の世代に胸を張ってバトンタッチできる、誇れる桑名市をつくる」と語っています。

そんな伊藤市長に、「桑名市の未来」を語っていただき、その中で「市民活動に期待するところ」をお聞きます。



市民活動応援☆きらきら基金 第3回助成事業
身近で小さな市民活動を応援する、市民活動団体への助成

2月22日(土) 午後1時から3時 桑名市総合福祉会館大ホール

このまちにはたくさんの市民活動団体があります。「子ども、高齢者、まちづくり、障がい福祉、環境、人権、防災、文化…」さまざまな分野で、私たちの暮らしを支えています。けれどもこれらの団体のほとんどが、取り組んでいる地域での活動の大きさに比べて、その資金は十分ではありません。多くの場合、ボランティアや持ち出しで支えられているのが現実です。

きらきら基金では、たくさんの方たちからご寄附いただいた20万円ほどを、第3回となる今回も、20ほどのこれら市民活動団体の方たちに助成させていただきます。これまでと合わせると50団体になります。当日は、各団体の展示とプレゼンテーションをご覧いただき、ご来場いただいたみなさんによる100円単位の「寄附投票」の結果にもとづいて、各団体の助成額が決まります。

もちろん、助成というにはまったく少ない金額ですが、せめて応援の気持ちといっしょに届けさせていただき、桑名員弁地域の市民活動団体の方たちの活躍を、少しでも多くの人たちに知っていただければと思っています。

市民活動応援☆きらきら基金 特別企画

企業の社会貢献活動の展示とアピール

2月22日(土) 午前10時30分から11時30分 桑名市総合福祉会館大ホール

このまちにはたくさんの企業があります。そして、たくさんの方たちが働いておられます。企業もまた、地域社会になくてはならない大切なメンバーです。そんな企業の中には、規模の大小に関係なく、社会貢献活動をしているところがたくさんあります。

私たちはあまりよく知らないだけで、実は身近なところで地域を支える活動しています。今回は、デンソーさんやトヨタ車体さん、くわしんさん、あるいは商工会議所さんといった経済団体のみなさんなどの、社会貢献活動を紹介します。

市民活動応援☆きらきら基金 第3回助成事業 いくつかの団体で取り組むパートナー事業への助成

2月22日(土) 午後3時から3時30分 桑名市総合福祉会館大ホール

今回から新しく、複数の団体で協力して行う事業に助成することにしました。市民活動団体は、取り組んでいる課題の解決にいそがしく、なかなか自分たちの活動を他の人たちに説明したり、他の市民活動団体といっしょに事業を行うところまで手がまわりません。けれどもほんとうは、お互いにたすけあったり、協力しあったりすることで、それぞれの団体の目的を達成しやすくなります。

パートナーシップ事業助成は、そのように協力しあって事業を行うことを後押しさせていただき目的で行うことにしました。少しずつ、たすけあえる関係ができていくことを期待しています。

市民活動応援☆きらきら基金 第2回助成事業成果報告

前回助成を受けた団体の報告

2月22日(土) 午後3時30分から4時

桑名市総合福祉会館大ホール

前回、2013年3月の第2回の助成事業では、20団体に合計で32万円ほどの助成を行うことができました。当日の寄附投票でご来場いただいたみなさまから、全部で12万円ものご寄附いただいたおかげです。ありがとうございました。

その20団体のみなさんからの活動の報告です。短い時間ですが、何に使ったという領収証的な説明ではなく、それらの市民活動団体の方たちが、どういうことに取り組み、どういう成果があったかをお聞きかせもらえればと思っています。ご寄附いただいた皆様への報告の機会です。これらのご報告は、きらきら基金のホームページにも掲載していきます。<http://blog.canpan.info/kirakiraboshi/>



市民活動応援☆きらきら基金 寄附セレモニー

2月22日(土) 午後0時30分から1時

桑名市総合福祉会館大ホール

団体助成とパートナー事業助成を合わせた30万円ほどの助成のためのお金は、たくさんの方たちのご寄附です。カエル・こぶたの募金箱をあちこちでおいてくださったみなさまや、いろいろな機会にご誇負いただいたみなさまを紹介し、せめて感謝状を送らせてもらおうと思います。

また、書き損じや未使用の葉書、未使用切手などをご持参いただいたみなさまにも、この場でご寄附いただければと思います。この事業の運営費は、日本郵便さんの年賀寄附金をいただいておりますけれど、いちばんかかる費用は実は郵送料です。それをカバーしてもらえるこれらのご寄附もたいへんたすかります。ありがとうございます。



詳細はこちらのブログからどうぞ!

<http://blog.canpan.info/miekita/>

市民活動応援☆きらきら基金 第3回助成事業

2月22日(土)午前10時から午後6時

桑名市総合福祉会館大ホール

きらきら基金のホームページには、120ほどの団体を訪問取材した内容を掲載しています。これらの団体紹介ページの内容は、新規に取材させていただいたところの他に、これまでの情報を更新もしています。

また、インターネットのUstreamを活用した「きらきら☆らじお」放送や、この「まちのかわらばん」を通じて、市民活動団体の紹介をしています。

これらの活動を通じて、たくさんの方のこのまちの市民活動に関わる方たちとのご縁をいただきました。これらの方々にさまざまに支えていただいて、きらきら基金の助成事業を行うことができます。ほんとうにありがとうございました。そのみなさんのお気持ちを形にしていきますので、当日は、どうぞ会場においていただき、みなさまのご支援の成果を、その目でご覧くださいね。

郷土史家 西羽晃氏の歴史寄稿

幕末・維新の桑名藩シリーズ 37 蝦夷での松平定敬

シリーズ31で書きましたが、前桑名藩主・松平定敬（以下、定敬と略す）は明治元（1868）年9月に仙台に着いた。しかし、ここも新政府軍の勢力下になってきたので、塩釜などを転々と移動した。そのうちに榎本武揚が率いる旧幕府軍の軍艦が蝦夷へ向かうので、定敬とお付きの成瀬奎右衛門、成合清、松岡孫三郎が開陽丸に乗った。他に備中松山藩主・板倉勝静、肥前唐津藩世子・小笠原長行も同乗した。他の桑名藩士たちも別の船に乗った。途中で寄港しつつ、10月21日に蝦夷の鷲木村沖に到着した。

定敬・板倉・小笠原の3人は貴人であるので、乗船中は将校室を宛がわれたが、榎本軍にとっては、むしろ邪魔者のように思われていた。そして何事も1人でするように申し渡された。兵隊たちは鷲木村へ上陸して、箱館（函館）を目指して進軍したが、定敬ら3人は船に滞在したままで情勢を見ていた。開陽丸が出港することになり、定敬ら3人も鷲木村に上陸したが、鷲木村は人家も少なく、商店も少なく不便なので、やがて近くの森村へ移った。榎本軍は箱館を制圧して、蝦夷政府を樹立した。定敬ら3人は森村を出発し、峠下で一泊して11月15日頃に箱館に到着した。ここでの宿舎は弁天町の山田屋であった。

蝦夷へ渡った桑名藩士は20人ほどであったが、新選組に加入して、土方歳三の部下として戦争に参加した。その中に家老の沢采女、公用人の森弥一左衛門も居た。沢は家老であるが、殆ど役にたたなかったようで、ここでは森が改役、沢は改役下役であり、森の方が上役であった。桑名藩士の佐治寛は箱館で病死している。

箱館では定敬は外出する際は1、2人しかお伴が付かなかった。しかし、時々榎本たちと共に料理屋で芸者を待らすこともあった。また箱館在住のアメリカ人、フランス人、ロシア人とも交際した。一先ず海外へ避難することも検討されて、アメリカ人に相談したが、同意されず、資金もないので海外渡航は立ち消えになった。日々の生活資金にも事欠き、資金を得るため、松岡孫三郎が12月28日頃に外国船に乗って東京へ旅立った。宿屋では経費がかさむので、定敬は12月末頃に山之上神明社の神職宅に移った。

前回に書いたが、12月24日には桑名藩家老・酒井孫八郎と部下の生駒伝之丞が箱館に到着した。酒井らは明治2年正月元旦に定敬と再会し、以後は酒井らが身の回りの世話をした。酒井は定敬が箱館から出ることを榎本や土方と協議した。また、定敬は英語の勉強をしており、孫八郎も一緒に英語を学んだ。定敬は桑名藩士たちを連れて、料理屋でドンチャン騒ぎをすることもあった。桑名藩士の石井勇次郎は鹿毛の馬を定敬に贈ったので、定敬は喜んで市中を乗り回している。

正月月中旬ころには、上海への渡航の話も出たが、何分にも旅費もなく決めかねた。取りあえず、2月15日に生駒伝之丞はフランス人の斡旋で船に乗って、連絡のため東京へ向かった。年末に東京へ向かった松岡孫三郎は後藤多蔵、金子（平松屋）寅吉と共に3月7日に箱館に着いた。おそらく東京の情勢を伝えるとともに、資金を持って来たのだろう。3月末には新政府軍の軍艦が箱館へ攻めてくる情報を得て、海外への渡航への進退を迫られたが、適当な船もなかった。

春になり梅花は盛りで、桜は僅かに開きかけであった。しかし、情勢は緊迫してきた。即ち新政府軍の軍艦が青森に集結し、箱館に攻めてくるのが現実になった。箱館の人たちは避難するために市内は混乱し、外国人は箱館から船で脱出した。4月5日午後定敬・板倉・小笠原が集まった席で、榎本から箱館を立ち退き、室蘭沖に用意してある船に乗るようにと言われた。いよいよ降伏への道を進むことになる。

- 参考文献 『艱難実録』（辻七郎左衛門忠貞 個人蔵）
「酒井孫八郎日記」（『維新日乗纂輯』第4巻所収）
「松平定敬家記」（国立公文書館所蔵）
「公文録」（国立公文書館所蔵）
「桑名藩御触留」（岩瀬文庫所蔵）
「戊辰戦争見聞略記」（谷口四郎兵衛、個人蔵）
「魁堂雑記」巻3・巻14（鎮国守国神社所蔵）